

地域説明会・学校関係者説明会等における 主な質問項目に対する回答および意見等

【教育内容について】

Q 望ましい教育環境とは何か？

A 江津地域の子どもたちの選択肢を確保した上で、充実した高校教育を提供し、卒業後の進路に繋げていくことが最も重要であると考えております。そのためには、1学年50～60人規模の学校では充分とはいえない多様な学びのニーズへの対応や、学校行事や生徒会活動、部活動の充実などが、1学年100～120人規模となることで、より切磋琢磨できる教育環境を確保できたり、多様な関係性の中でコミュニケーション能力やリーダーシップを身に付けたりすることにつながると考えます。

Q 普通科系の学びの想定において、看護・栄養・保育といった具体的な資格職が示されているのはなぜか？ また、文系進学が想定されているのに、理系進学の記載がない。理系の学びも必要ではないか？

A 想定される学びの主なものとして、文系進学と資格職をめざした進学の2コースを挙げています。ここ数年間の江津高校卒業生の進路先として、主に文系進学と資格職を目指した進学があり、新設校でも普通科系の学びとしてこの2つのコースが必要であると考えました。今後、詳細な教育課程の検討をしていく際に、理系希望者の進学状況も分析しながら、理系の学びについて考えていくこととなります。

Q 工業科と普通科系が統合することのメリットは？

A コンソーシアムを中心とした高校と地域との連携・交流がさらに深まること。また、工業科と普通科の学びの融合によって、部活動や学校行事の活性化だけにとどまらない相乗効果が生まれることを期待しています。詳細の教育課程や特色ある教育活動については、基本的な方針を決定した後の検討となりますが、例えば、普通科の生徒にとっては実習や就職準備に取り組む工業科の生徒の姿を通して新たな地域社会に貢献する視点が芽生えること。また、工業科の生徒にとっては、進学を目指す普通科の生徒から刺激を受け、就職以外にも県内の大学進学を目指す意欲が高まることなども期待しています。

Q 詳細な部分を検討する場合にも、地域の意見も丁寧に聞き取ってほしい。
工業教育では、プログラミングを学習の中心に据えるなど他の工業高校と差別化を図るべき。

A 教育課程や特色ある教育活動、部活動などの詳細は、基本的な方針を決めた後に検討することになります。その際は、県教育委員会だけで検討するのではなく、コンソーシアム、地域の方のご意見も伺いながら検討していくことになると考えています。

Q 地域人材を育成する観点から、工業系の学びにポリテクカレッジとの授業連携を取り入れることで5年間の教育コースを設定し、地域で活躍できる子どもを育てることも検討してほしい。島根県立大学や島根大学の附属学科のような位置づけとすることも検討してほしい。

A 連携・協働を期待する教育機関として、島根大学や島根県立大学、ポリテクカレッジなどがあります。地域資源を活用した特色ある教育課程を構築することは「県立高校魅力化ビジョン」でも大切にしているところであります。基本的な方針が定まった後、詳細な教育課程などを検討する際には、普通科系と工業系のそれぞれに、こうした機関との連携・協働による特色ある教育活動についても取り入れてまいります。

Q 工業系ではマイスター・ハイスクール、普通科系では国際バカロレアなど、魅力化・特色化にチャレンジしてほしい。

A 基本的な方針が定まった後、具体的な教育課程や特色ある教育活動について検討します。その際、いただいたご意見についても実現可能かどうかを検討することになりますが、それぞれ認定のための必要な条件がいくつかあり、実現するためのハードルは高いと思っています。子どもたちにとって魅力的な高校となるよう両校の教員やコンソーシアム、連携する教育機関等と相談しながら進めてまいります。

※ マイスター・ハイスクール事業は、近年の急速な産業界の変化に対応した次世代の職業人材を育成する仕組みを産業界と専門高校が一体となって構築することを目的として、一昨年度から文部科学省が進めている事業。具体的には、企業からの管理職の出向や技術者の派遣を受けることで、産業界をはじめ関係者が一体となって学科やコースの改編などにより、教育カリキュラムを刷新することや、企業等での授業、実習を多数実施するといった取組を行うもの。令和3年度から3か年事業で始まり、令和5年度の段階で全国に17機関が採択されている。

※ 国際バカロレア (International Baccalaureate) は、国際バカロレア機構 (本部ジュネーブ) が提供する国際的なプログラム。1968年、世界の複雑さを理解して、そのことに対処できる生徒を育成し、生徒に対し、未来へ責任ある行動をとるための態度とスキルを身につけさせるとともに、国際的に通用する大学入学資格を与え、大学進学へのルートを確保することを目的として設置。

意見・要望

- ・建築系の仕事では土木技術者が足りていないため、土木科が必要と考える。
- ・工業系のカリキュラム(特に情報系科目)を設定し、新設校の強みにしてほしい。
- ・探究に力を入れてダイナミックなカリキュラムを編成して、子どもたちが主体的に学び、自信をもって社会に出るような学びができると面白いと思う。
- ・理系進学を希望した場合に、私立か市外に進学せざるを得ないのは、理系教育が捨て置かれたという感覚がある。地元で学び続けられる環境がほしい。
- ・普通科を文系としているのは不自然。理系大学を目指せるように考えるべき。
- ・江津高校が行ってきた少人数教育を生かしてほしい。
- ・芸術の科目(音楽)選択ができるようにしてほしい。
- ・普通科系ではなく普通科を残してほしい。
- ・海外留学などグローバル人材育成のための教育活動を推進してほしい。
- ・新たな時代に必要とされる人材を育てるためのカリキュラムに改めるチャンスだと思う。
- ・選択肢がたくさんある学校をつくってほしい。
- ・普通科生徒にとって工業科生徒と共に学ぶメリットがない。普通科と工業科の共存は難しいと思う。

【学校活動について】

Q 2030 国スポに向けての強化育成は始まっている。このタイミングでの在り方検討には疑問。

A 県立高校の在り方検討は「県立高校魅力化ビジョン」にもとづいて、地域の中学校等卒業生数、志願者数、入学者数の推移等を総合的に判断して検討する時期がきたことによるものです。国スポの選手強化は、新設校の議論に関わらず進めていきます。

→Q 統合の新聞記事によって江津高校に入学して部活動に専念することを希望していた県外の中3生からもう志願変更するしかないとの話がきた。

A 是非その生徒の誤解を解いていただきたいと思います。現在の中3生にとって、今後の高校3年間の教育環境は現状と変化はありません。

→Q 統合されると部活動はどうなるのか？

A 部活動の具体的な在り方は、基本的な方向性を決めた後、しっかりと時間をかけて検討します。現時点で、統合によりどこかの部活動を廃部にするということは考えていません。

→Q 統合されると部活動の練習場所が不便になるのではないか。

A 部活動の活動場所については引き続き、江津高校のグラウンドやプール、体育館を活用することを考えています。もちろん一般の施設利用もあり得ます。

→Q 部活動の練習場所が江津高校の施設となると移動負担が大きいのではないか。

A 部活動の練習場所までの移動方法についても、今後、検討していくことになります。

Q 令和2年度に江津市と県立3校でコンソーシアムを設置し、魅力化を進めてきた。江津高校についても、その成果が出はじめているところ。これからの成果を見てほしい。

A 「県立学校 GO▶GOTSU コンソーシアム」では、江津高校における「GOTSU ミニトークフェス」「GOTSU ヒトコトモノツアー」「GOTSU ビトインタビュー」などのインプットのための事業や地域課題解決型学習、江津工業高校における「つながる」事業、「みがく」事業、「つたえる」事業などの取組をされており、その協働体制の構築や取組の推進に対しては、心より感謝申し上げます。

コンソーシアムの活動は、是非、新設校においても引き継いでいただき、地域と高校とが協働して、江津地域の子どもたちの学びの充実を実現していただきたいと考えています。

意見・要望

- ・特徴のある教育活動で魅力化をし、市外・県外から生徒が入学してくる学校にしてほしい。
- ・部活動の勧誘等のためにも、統合後の細かい部分まで早く決めてほしい。
- ・各高校の部活動の魅力も引き継いで活かしてほしい。
- ・全国の統合校を研究して、魅力的な高校をつくってほしい。
- ・少子高齢化に対応した学びがほしい。魅力ある高校になるよう県教委の支援を期待する。

【学校規模について】

Q 普通科系1学級、工業系2学級とした理由は？ 普通科系が2学級ではないのか？

A 江津地域における普通科系の学びと県西部における工業教育として、普通科系の進学を念頭に置いた2コースと、工業教育は教育内容の幅が広いいため4コースを想定しています。あわせて6コース各20人の120人を想定しています。このため普通科系1学級、工業系2学級としております。

- 開校を目指すR10年度前後の推計値において、江津市内から江津高校への進学者数は1学級40人程度です。年々によって流動的な市外からの進学者を含めても50人程度であり、2校あわせても100人程度と予測されます。
- R10年度以降においては、さらなる減少が見込まれます。

→Q 江津高校の将来推計値は、どのように出されたものか？

A 過去5年間の県内すべての中学校等について、卒業した生徒のうち江津高校へ入学した割合から今後の見込み係数を算出し、その係数を各中学校等の卒業見込み生徒数に掛けた数値を合計して推計値としています。

→Q 江津高校は市外生を増やし、充足率も増加傾向にある。これを考慮し普通科系を2学級としてほしい。

A 特色ある教育課程や魅力的な教育活動を検討し、まずは市内の中学生に選ばれる高校となることで、市外からの入学生も増えることを期待しています。

江津高校が地域と連携して行っている特色ある教育活動の成果として、今後、中学校等卒業生の進路状況が変化し、新設校で普通科系の学びを希望する子どもたちがさらに増えてくれば、開校にあたりクラス増もあり得ます。

→Q 今後の入学者数も注視して、入学定員を増やすこともあり得るということだが、基本的な方針に学級数まで定めるのか。

また、入学定員はいつ頃公表されるのか。

A 今後の手順としましては、基本的な方針を定めた後、詳細な教育課程等を検討し、必要となる施設整備等を考えていくこととなります。したがって、まずは基本となる学級数を定める必要があります。

入学定員につきましては、今後の両校の入学者数を注視し、開校2年前の9月頃の公表となります。

意見・要望

- ・2校対等の統合であることを示すため、また、女子生徒の受け皿として普通科系2学級、工業系2学級が必要である。普通科が減少すると若い女性が流出しないか心配である。
- ・江津工業高校のための統合案に見える。江津高校の単独維持を求める。
- ・伝統ある江津工業高校を名実ともに残すべきである。
- ・女子教育の場が必要である。普通科系にゆとりある定員設定を希望する。
- ・県外生の入学について整理して考えてほしい。寮があれば県外生が増えると思う。
- ・江津高校の敷地に新設校を設置する方がポリテクカレッジとの協働学習が進めやすいと考える。

【手続き等について】

Q 平成31年2月に策定された「県立高校魅力化ビジョン」は地域と一体となった魅力化推進をうたっていたが、統合再編に舵を切るということは、このビジョンは無効となったのか？

A ビジョンは令和元年度から10年度までの10年間の方針であり、現在も有効です。ビジョンの中でも別枠で記述されている江津・浜田地域について、地域における高校・学科の在り方や配置について検討する時期がきたと考えています。

→Q なぜ江津地域だけ検討に入るのか、浜田地域や他地域は検討しないのか？

A 江津地域の生徒数の減少が顕著であり、浜田地域は減少が緩やかとなっているため江津地域を検討することとしました。また、他地域においても生徒数の減少は見られますが、中山間地域では進路保障の観点から現状を維持することとし、他の市部では学級減で対応しています。

→Q ビジョンには、石見部全体で議論すべきとあったが、なぜ江津地域だけの検討なのか？ 江津市内だけで統廃合しなくても良いのではないのか？

A 石見部において工業教育は、江津工業と益田翔陽がありますが、浜田市にはありません。普通科系教育は大田・江津・浜田・益田にあります。さらに中学校等卒業生数の減少は浜田地域よりも江津地域が顕著です。これらのことを総合的に踏まえた検討となっています。

→Q 平成30年までの再編成基本計画にあった「定員の5分の3を切ったら統廃合の検討」というような基準は今もあるのか？

A 「県立高校魅力化ビジョン」に統廃合基準はありません。地域の中学校等卒業生数、志願者数、入学者数の推移等を総合的に判断して検討することになります。

Q 8月に予定されている総合教育審議会のメンバーに石見のことを理解している委員に入ってもらいたい。石見部の状況を理解したうえで議論してほしい。

A 審議会委員の選任にあたっては、専門性や地域バランスを考慮しています。8月の審議会においては委員の皆様に対して、検討に至った経緯及び学校関係者説明会や地域説明会でいただいたご意見などをきちんと説明し、十分に議論ができるよう努めてまいります。

Q 検討を重ねた結果、統廃合が白紙撤回されることはあるのか？

A このたび今後の在り方の検討を始めるにあたり、設置者としての責任として、基本的な方針案をお示しました。今後も、そういったご意見も含めて、様々な視点からのご意見をいただき、検討を重ねていきたいと考えております。

Q 例えば、統合校が令和 10 年度に開校された場合、令和9年度に江津高校及び江津工業高校に入学した生徒はどういった扱いになるのか？

A 基本的な方針が定まった後、詳細について検討を重ねることになりますが、過去の統合校の例では、入学した高校で卒業しています。つまり、最後の年は下級生のいない形で卒業式・閉校式を行っています。

Q これから高校進学を控える子どもたちの保護者の意見が大切である。その意見をしっかりと聞いてほしい。

A 10月を目途にパブリックコメントを実施し、意見を聴く機会を持つ予定です。

Q 地域からの意見を聴くのは、これまでの3回、両校の学校関係者説明会と地域説明会、これで最後なのか？

A 今後開催する総合教育審議会において、学校や地域関係者の代表の方にも出席していただき、意見を聴く機会を持つことやパブリックコメントの実施を検討しています。

意見・要望

- ・7月15日の地域説明会は、できるだけ多くの人に参加できるようにしてほしい。
- ・R10年度までの細かなロードマップを示してほしい。
- ・保護者にとっては、方向性を早く示してもらほうが安心できる。
- ・進捗状況を細かく伝えてほしい。
- ・統合校の開校までの間、入学希望者が減少したり、入学した生徒が不安になったりと思われる。提案のあった基本的な方針案により早期に実現してほしい。
- ・県教委の中で議論を留めることなく、地域のアイデアを取り込む形にしてほしい。
- ・地元や大学、企業などからも声を聞いてほしい。
- ・早く方針を固め、具体的な計画をしてほしい。
- ・プロジェクトチームをつくって統合まで同じメンバーで取り組む方法は考えられないか。
- ・小中学生に行きたい高校アンケートを取っても良いのではないか。
- ・江津市内2校の統合ではなく、浜田市・浜田高校を含めた再編成を検討すべき。
- ・人口減少への対応は地域づくりの視点も必要で、その視点で議論する場があるべき。
- ・充足率80%超での統合案に納得いかない。検討期間を2年くらいとってほしい。
- ・検討時期が遅い。
- ・年内に方針決定は早すぎる。
- ・児童生徒に意見を聞くべき。どのような学習環境を求めているのか、アンケートを取るべき。
- ・県西部エリアとして統合を検討するべき。
- ・県全体の統廃合ルールづくりから始めるべき。
- ・町づくりや人口減少対策に取り組む江津市にとって統合はマイナス。

【その他】

Q 江津市へはいつ説明したのか、市の考え方はどうだったのか？

A 6月議会の知事施政方針の前に、江津市には議会で議論していくことを伝えました。また、6月末に議会での質問・答弁等の詳細について説明しました。江津市からは、地元の意見をしっかりと聴いて丁寧に進めてほしいということと、何よりも江津地域の子どもたちの教育を最優先に考えて検討してほしい旨のご意見をいただきました。

Q 学校関係者説明や地域説明よりも先にマスコミ報道があり、結論ありきを感じる。県教委に対して不信感を抱いている。

A 県立高校の在り方については、知事から6月議会の施政方針で検討をはじめている旨を公表するとともに、県民の代表である県議会議員からの一般質問に対し、基本的な方針案を説明させていただきました。これは、地域の一部の方のみが参加される地域説明会の後、口伝えによる憶測も含めた不確かな情報が広がることによる混乱を避けるためでもありました。

現在、学校関係者説明や地域説明会でご意見をいただく手順として進めています。今後、様々な視点からのご意見をいただきながら検討を重ねてまいります。また、7月中には県教育委員会のホームページに専用のページを作成し、随時、確実な情報発信をしてまいります。

Q 江津工業高校の校名は残してほしい。校名が変わると、校歌も応援歌も変わることになる。

A 校名や校歌の検討は、基本的な方針を決めた後、決定までのスケジュール等も含めて検討することになります。過去の統合校の例では、校名は公募で決めています。

Q 県教育委員会において、新設校の開校まで責任をもって検討していく専門人材をつけてほしい。

A 県教育委員会として責任をもって検討を重ねていけるよう、少なくとも人事異動があった場合には、担当部署においてしっかりと引継ぎ体制を整えて業務にあたってまいります。

Q 数年かけて議論すべき。江津市のサポートがあれば市外・県外から生徒募集できるはずなので、あと数年、時間をいただきたい。時期尚早ではないか。

A 県立高校の在り方検討は「県立高校魅力化ビジョン」にもとづいて、地域の中学校等卒業者数、志願者数、入学者数の推移等を総合的に判断して検討する時期がきたことによるものです。

中学校等卒業者数の減少は、県内他地域においても同じような傾向にあるため、市外からの入学者数が、今後大きく増加することは難しいと考えています。

また、県外からの入学者数は、江津高校が5年間で10人（年平均2人）、江津工業高校が5年間で4人（年平均1人）であることから、県外からの入学者数が、今後大きく増加する見通しは持っていません。

5年後、10年後を見通したとき、一定の学校規模を維持したうえで、地域と協働した両校の特色ある教育活動を継承・発展・融合させ、将来にわたって地域の子どもたちにとって魅力あふれる教育環境を構築するために、検討をはじめることとしたところで

す。

Q 女子生徒のための寮が必要だと考える。

A 県立高校の寄宿舎は通学困難者のために設置しております。離島・中山間地域における県外生の積極的な募集においては、市町村と連携して高校生住まい確保に対応しているところです。

現在、江津工業高校には寄宿舎（男子専用）を設置しており、平成31年度からは、江津高校も利用可能となっています。女子生徒への対応など新たな整備につきましては、基本的な方針が決定後、検討してまいります。

Q 全国で普通科と工業科との統合例はあるのか？

統合例におけるメリット・デメリットを整理して本県にも生かしてほしい。

A 他県における統合再編の考え方は、1学年の適正規模「4～8学級」を原則としている例が多く、3学級規模で統合対象となっています。その中には、普通科と工業科、普通科系総合学科と工業科のような統合例があります。近隣県では、山口県、広島県、愛媛県、香川県、高知県などでそのような統合校があります。また、岩手県など現在進行している普通科系と工業科の統合計画もあると聞いています。先行事例のメリット、デメリットについては、研究・整理して今後の検討に生かしていくよう考えております。

Q 現在の高校生や開校時期に高校生となる子どもたちにも意見を聴いてほしい。

A 基本的な方針が決定した後、新設校の学びについて詳しく検討する段階において、しかるべきタイミングを見極めて、子どもたちの意見を聴く機会をもちたいと考えております。

意見・要望

- ・少人数の教育にも良さがある。この良さを生かすため江津高校を維持してほしい。
- ・進学を希望する女子生徒の受け皿が必要。普通科系を2学級とすることと、女子寮をつくってほしい。
- ・女子寮は不要、現実的ではない。
- ・中学校における進路指導の中で、専門高校の進路に関する説明が十分にはされていない。江津工業高校卒業生の就職状況など良さが伝わっていない。
- ・統合となると普通科系に女子生徒が多くいると想像される。女子のための教育環境、トイレや更衣室などを整備してほしい。また、バリアフリー化についても重要な点なので、安全・安心な学校となるよう充実させてほしい。
- ・都野津に高校があることが地域にとっては重要である。都野津・二宮は若い世代が増えている地域である。
- ・都野津地区の将来が気になる。
- ・地域説明会に市役所職員がいないことは大変違和感があった。
- ・2校を統合するメリットがわからなかった。統合後の魅力を早期に発信しないと誰も選択しない高校になる可能性大である。
- ・県教育委員会のホームページでの発信を早めをお願いしたい。
- ・浜田高校に流れる生徒が増えているが、中学校の進路指導はどのようにしているのか。小中高連携の進路指導をする必要があるのではないかと。